

主題：キリストのからだの実際

メッセージ 9

キリストのからだの実際のためにキリストを享受することによって、
キリストのゆえに生きる

聖書：イザヤ 7:14-15. エレミヤ 2:13. 15:16. ヨハネ 6:57, 63, 68. II コリント 5:14-15. 12:7-9

- I. エレミヤ書の核心は、聖書全体の核心と、全体的な教えでもあり、神が何をわたしたちから欲しておられ、わたしたちが墮落した状態の中で何であるか、キリストがわたしたちにとって何であるかを啓示しています。それはわたしたちが、神の傑作としてのキリストのからだの実際のために彼を享受するためです：
- A. 神はわたしたちが彼を源とし、彼から飲むことを欲しておられます。それは彼がわたしたちの享受となるためであり、この享受は、わたしたちの霊の中にインストールされており、永遠の命へとわき出る生ける水の源泉です——エレミヤ 2:13. ヨハネ 4:10, 14. 7:37-39 前半. 詩 46:4. 啓 22:1. 参照、ゼカリヤ 13:1. 啓 4:5. イザヤ 4:4。
 - B. わたしたちが唯一の享受である主を見捨てたので、わたしたちは墮落した状態において望みがなく、完全に腐敗し、いやし難く、変わることをできない者となりました。神の目に、彼をわたしたちの命の供給として享受しないことほど邪悪なものはありません——エレミヤ 13:23. 17:9. イザヤ 57:20. ヘブル 3:12-13. 参照. 創 21:9. ガラテヤ 4:29. 5:15-16。
 - C. キリストが新契約の実際となるために来られたのは、法理的な贖いのためのわたしたちの義としてであり、またわたしたちの有機的な救いのための内なる命の法則としてです。それはわたしたちを団体的なからだ、すなわち三一の神の一の中で三一の神の有機体とします。それは新エルサレムにおいて究極的に完成します——エレミヤ 23:5-6. 31:31-34. イザヤ 42:6. ゼカリヤ 13:1. 詩 36:8-9. ローマ 5:10. 啓 22:1-2。
 - D. エレミヤが啓示したのは、わたしたちがキリストを享受してキリストを生きることができるのは、朝ごとにあわれみ深い方としての彼と接触し（哀 3:22-24. 詩 43:4. 110:3）、彼の御名を呼び（哀 3:55-56）、彼の言葉を食べ（エレミヤ 15:16. 23:28-29. ヨハネ 6:57, 63, 68）、預言して彼をご自身の選びの民の中へと分与することによってです（エレミヤ 1:4-10. 15:19）。それはわたしたちが造り変えられて（48:11）、一つの心と一つの道を持ち、キリストのからだの実際のために三一の神の一の中で、同じ心・思いを実行することができるためです（32:39. 31:34. エペソ 4:3-4. 2:10）。
- II. キリストのからだの実際は、神のエコノミーにおける最高嶺であり、聖書の最高の啓示です—— 1:22-23. 2:10. 3:9-11. 4:1-6, 15-16：
- A. キリストのからだの実際は、イエスの中にある実際、すなわち四福音書に記録されたイエスの生活の実際の状態です。それは成就された神・人の団体の生活として、彼の多くの肢体の中で複製されます—— 20-21 節. ガラテヤ 2:20. ペリピ 1:19-21 前半. 4:11-13。
 - B. キリストのからだの実際は、実際の霊、すなわち栄光を得られたイエスの霊であり、

わたしたちの霊とミングリングされて、手順を経た三一の神のすべてをキリストのからだの中で実際とし、わたしたちを神聖な命によって神・人の生活を生きる実際へと導きます——エペソ 4:3-4. ヨハネ 14:17. 16:13-15. I コリント 2:9-15. 6:17. ローマ 8:4, 6. ガラテヤ 5:25-26. 参照、マタイ 12:33-37. 詩 38:13-14. イザヤ 42:19。

- C. 神聖な交わりは、キリストのからだの中の生活の実際です。この交わりは、すべての信者の内側にある実際の霊の流れ、循環、水流であり、キリストのからだの中で手順を経た三一の神のすべてを実際とします——II コリント 13:14. ピリピ 2:1. I ヨハネ 1:3. 参照、啓 22:1。

Ⅲ. わたしたちはキリストのからだの実際のために、キリストのゆえに生きる必要があります。「生ける父がわたしを遣わされ、わたしが父のゆえに生きているように、わたしを食べる者も、わたしのゆえに生きる」——ヨハネ 6:57：

- A. 主イエスは御父「のゆえに」生きられ、御父を最も豊富な恵みで予表される「天のバター」と、最も甘い愛で予表される「天の蜜」として常に享受しました。それは彼が御父を生きるための供給する要因となり、御父に従うための力づける要素となりました。そのようにして、彼は飼葉桶から十字架まで、神・人の生活を生きることによって、御父の完全なみこころを選ばれました。彼は謙虚の中で小さな道、ご自身を低くする道を取り、死にまでも、十字架の死に至るまでも従順になりました——イザヤ 7:14-15. 出 3:8. エペソ 5:25. ルカ 2:12. ピリピ 2:8. マタイ 11:25-30. ヨハネ 1:14-17. 17:26。
- B. わたしたちはキリストを道具とすることによって、キリストによって生きません。わたしたちはキリストを生活の供給する要因とすることによって、キリストのゆえに生きます。わたしたちが食べる霊的食物としてのキリストは道具ではなく、供給する要因です。杖を道具として用いて歩くことにおいて、杖を食べる必要はありません。わたしたちの食物としてのキリストのゆえに生きるために、わたしたちは彼を食べなければなりません。それは彼が供給し、強める要因となり、彼のからだの建造をするためです——ヨハネ 6:57, 63, 68. エレミヤ 15:16. コロサイ 2:19. 参照、ローマ 8:2。
- C. わたしたちは、霊の中で生ける模範としての主と接触しなければなりません。彼を最も豊富な恵みで予表される天の凝乳と、最も甘い愛で予表される天の蜜として日々享受します。それは、彼が復活の力としての彼ご自身を持ってわたしたちを供給し、またわたしたちが神の完全なみこころを選び、召会のためにわたしたちの命を犠牲にするためです——ローマ 5:1-5, 17. テトス 3:15. I ヨハネ 3:16：
1. ペテロはキリストを尊さ（I ペテロ 2:7）として、また最も豊富な恵み（1:13. 4:10. 5:5, 10）と最も甘い愛として享受しました（1:8）。それは、キリストの苦難についての主要な証し人として、彼がキリストを豊かな供給として享受し、進んで彼の命を犠牲にする殉教者となってキリストの苦難を証しするためです（5:1-4. ヨハネ 21:15-19. I ペテロ 4:19. 使徒 5:20, 40-42）。
 2. パウロはキリストを最も豊富な恵みと（I テモテ 1:14. I コリント 15:10, 58. II コリント 12:7-9）、最も甘い愛（ローマ 5:5. 8:35, 37）として享受しました。

それは彼に押し迫って主に対して生きさせ（Ⅱコリント 5:14-15）、キリストのからだの建造のためにキリストの苦しみ of 欠けたところを補い満たすためです（コロサイ 1:24）。

- a. エペソに在る召会へのパウロの書簡の目標は、聖徒たちを神の内なる実質としての神聖な愛の中へともたらすことでした。それは彼らが愛である神を享受し（Ⅰヨハネ 4:8, 16）、神聖な愛の甘さの中で彼の臨在を享受するためであり、それによってキリストが愛されたように、わたしたちも他の人を愛するためです（エペソ 5:25, 6:24. 参照、1:4, 3:17, 4:2, 15-16, 5:2）。
- b. パウロはご自身を犠牲にされた方、ぶどう酒を生み出すぶどうの木の実際としてすべてを含むキリストを経験しました。それは彼が新しいぶどうとなって神と人を喜ばせるためです——ピリピ 2:17-18, 申 8:7-8, 士 9:13, マタイ 9:17. 参照, 雅 1:2。
- c. パウロは、すべてを含むキリストを天のぶどう酒として享受し、彼で満たされて、神へのぶどう酒となる程度にまでとなりました。殉教者として主に対して生き、主に対して死ぬことで、注ぎのささげ物として注がれ、神の建造としての召会のために費やし、自分自身を使い尽くしました。それは彼が喜びを持って自分の行程を終えるためです——ピリピ 2:17, 3:12-14, Ⅱテモテ 4:6-8, Ⅱコリント 12:15, 使徒 20:24。